

## 国際子ども図書館の概要

国立国会図書館 国際子ども図書館 資料情報課  
網野 美美

昨年（2008 年）10 月、国際子ども図書館の来館者が 100 万人を超えました。そして来年 2010 年には開館十周年を迎えます。開館から今まで、国際子ども図書館は多くの方々に支えられながら、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」という理念のもと、子どもの読書環境・情報提供環境の整備のための活動を行ってきました。本日は、その活動についてご紹介したいと思います。

### 1. 国際子ども図書館とは

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として設立された、日本初の国立の児童書専門図書館です。2000 年 1 月に設置、同年 5 月に第一期開館、2002 年 5 月に全面開館しました。国立国会図書館法では「おおむね十八歳以下の者が主たる利用者として想定される図書及びその他の図書館資料に関する図書館奉仕を国際的な連携の下に行う支部図書館として、国際子ども図書館を置く。」（第 22 条第 1 項）と規定されています。

これらの活動を次の組織で行っています。現在の職員数は非常勤を含めず、館長 1 主任司書 2 企画協力課 11、資料情報課 14、児童サービス課 9、全体で 37 名です。

### 2. 館内サービス

まずは、来館する利用者への直接的なサービスです。児童書のナショナルセンターとして図書館員、教員、研究者、親等、子どもと本をつなぐ立場にある大人に対してさまざまなサービスを行なっています。納本制度に基づく国内刊行児童書の収集と海外の優れた児童書の収集は、国際子ども図書館の最も重要な役割で、すべてのサービスの核となっております。ここに 2008 年 9 月現在の所蔵資料数をあげました。開館当初 5 万冊だった資料も今は 35 万冊を超え、収集した外国資料は 100 カ国を超えています。これらの資料は 18 歳以上の方はどなたでも第一・第二資料室でご覧になれます。なお、「子どものへや」および「世界を知るへや」に開架する資料は子どもが利用するため、永久保存が必要な納本資料は提供が難しく、複本を購入して提供しています。何故なら、民間出版物は 1 部のみの納本のため国際子ども図書館所蔵の児童書は、中央館にも所蔵がないからです。

国際子ども図書館は 1906 年に帝国図書館として建てられた建物を再生するかたちで改修したもので、3 階建てです。2 階の**第一資料室**には、日本とアジア諸国で刊行された児童書の一部、日本語による児

童書研究のための参考資料、最新版の学校教科書などを中心に約 16,000 冊を開架しています。昨年度は、約 8,400 人の方がおいでになりました。

**第二資料室**は、アジア諸国以外の外国で刊行された児童書および参考資料を約 9,600 冊開架しており、約 4,900 人の方がおいでになりました。開架してあるのはほんの一部であり、ほとんどの資料は書庫に収められ、利用者の請求により、資料を出納する方式をとっております。

1階には、**子どものへや**と**世界を知るへや**があります。子どもを主な対象とする部屋で、年齢制限は設けておらず、どなたでも自由に入ることができます。子どものへやには、長く読み継がれた絵本や読み物、知識の本等を職員が選書し、約 10,000 冊を開架しています。世界を知るへやには、子どもたちが世界に興味や関心を持ち、国際理解を深めることができるように、約 120 の国と地域に関する資料が開架されています。

この二部屋では、子どもたちに本の魅力を伝えるための企画として、夏休みの間だけ読書キャンペーンを行いました。参加者の子どもたちはヒントをもとに、答えが載っている本を探し出して読み、クイズに答えるという形式です。問題を初級、中級、上級に分けて、小学校高学年くらいまでの子どもを対象に実施し、2009 年度は約 1200 人の参加がありました。

3階には、**メディアふれあいコーナー**があります。ホールの一画に PC が設置され、子どもが楽しめる DVD 約 100 点および電子展示「絵本ギャラリー」を閲覧することができます。

**子ども向け催し物**として、おはなし会、おたのしみ会、科学あそびの 3 種類を行っており、運営や実際のおはなしなどは、児童サービス課の職員が交代で実施しています。

おはなし会は、さらに「子どものためのおはなし会」と、「ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会」に分かれています。

子どものためのおはなし会は、毎週土曜日と日曜日に、4 才～小学校 1 年生までの会と、小学校 2 年生以上の会の 2 回に分けて実施しています。子どもが楽しめるようにするため、付き添いの大人は入室をご遠慮いただいております。内容は手遊び、ストーリーテリング、絵本の読み聞かせなどで、おおむね 20 分から 30 分程度の会になります。

ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会は、毎月第 3 土曜日とそれに続く日曜日に実施しており、こちらもおおむね 30 分程度です。対象者は 3 歳以下の子どもと保護者になり、事前申し込み制です。

また、学校の長期休暇にあわせて、人形劇やパネルシアターなどのおたのしみ会や、科学あそびを開催しています。昨年度はあわせて 14 回開催し、318 人の参加がありました。

次に**見学**についてご紹介します。

子ども向けの見学は通常、幼稚園・保育園、小学校、養護学校、インターナショナルスクール等からクラス単位で受け入れをしています。事前申し込み制となっており、内容は、館内見学及び要望に応じておはなし会、調べ学習の援助、インタビューなどを盛り込んでいます。2008 年度は 23 回 715 人の参加がありました。

また、夏休み子ども向け図書館見学ツアーを 2007 年に試行し、2008 年度から本格的に実施しました。

これは、夏休み期間中の通常の団体向け見学をお休みして、個人で参加できるツアー形式にしたものです。対象は小学生から中学生で、内容は1時間程度の館内見学に限定しています。やはり事前申し込み制です。夏休み期間中6回実施し、115人の参加がありました。

大人向けの見学も、団体対象のものは予約制です。内容は各団体の希望をとりいれ、例えば「図書館の話と建物の話を半分ずつ、全部で1時間30分で説明してほしい。」などのコース設定が可能です。そのほか、火・木曜日の午後2時から手続きが簡単で、当日予約も可能な「ツアー」（としょかんコース、たてもんコース）も行っております。

また、子どもの本の魅力を伝え、子どもと本の出会いの場を提供するため、日本と世界の児童書をテーマとする数々の**展示会**を3階本のミュージアムで開催しています。現在は、展示会「出発進行！『のりもの』本めぐりへ」を開催しています。展示会は、テーマ選択から組立まで各課から選出された職員がチームを組んで取り組みますが、なかなか大変な労力がかかっています。来年2月には10周年記念展示として、「日本発☆子どもの本、海を渡る」と題し、海外で翻訳出版された日本の児童書を展示し、日本の児童書の国際的な広がりについて通観する予定です。韓国で翻訳出版された日本の児童書も多数展示されます。

なお、展示会ごとに、関連講演会、ギャラリートーク、子ども向け催物なども開催しています。

### 3. 遠隔サービス

1次情報の発信として、国際子ども図書館で提供しているものには、児童書デジタルライブラリーと絵本ギャラリーがあります。**児童書デジタルライブラリー**は、国立国会図書館および国際子ども図書館で所蔵する昭和30年以前刊行の児童書の一部について、全文画像を掲載するデジタルアーカイブです。現在、1,687タイトルの画像がご覧になれます。**絵本ギャラリー**は、18世紀から1930年代に至る期間の、日本と欧米の絵本の名作を紹介しているデジタルミュージアムです。現在、8つのコンテンツがあり、今年の5月に公開したのは、戦前期を代表する絵雑誌「コドモノクニ」のコンテンツの一部です。これは、今後もコンテンツを増やしていく予定です。

**国際子ども図書館のホームページ**にはコレクション紹介や子どもと本の内外情報といったものが掲載されています。子ども図書館が持っている特徴あるコレクション、国内外の児童書に関するニュース情報などが掲載されています。

また、国際子ども図書館や国立国会図書館のホームページからNDL-OPAC、アジア言語OPAC、児童書総合目録等を利用し、国際子ども図書館の所蔵資料を検索することができます。**児童書総合目録** (<http://www.kodomo.go.jp/resource/search/toc.html>) は、国際子ども図書館、国立国会図書館のほか、日本国内で児童書を所蔵する主要類縁機関である大阪府立国際児童文学館、<sup>おおさか</sup>神奈川近代文学館、<sup>かながわ</sup>三康文化研究所附属<sup>さんこう</sup>三康図書館、<sup>とうきょう</sup>東京都立多摩図書館、日本近代文学館、<sup>ぼい</sup>梅花女子大図書館、<sup>しらゆり</sup>白百合女子大学図書館の7機関が所蔵する児童書・児童書関連資料の所蔵情報を一元的に検索できる目録であり、児童書の専門書誌として受賞情報やあらすじ（解題情報）などもあわせて提供します。この児童書総合目録に格納されているあらすじが、ストーリーレファレンスの強い武器になるのです。

他の情報発信にも努めており、職員が調べものに有用であると判断した図書館資料、ウェブサイト、

各種データベース、関係機関情報を、特定のテーマ、資料群別に紹介する「リサーチ・ナビ」と称するウェブサイトが今年 5 月公開されたのを期に、「児童書」というテーマのもと様々な情報を掲載しています。また、レファレンス協同データベースという全国の図書館等から寄せられるレファレンス事例などを収載するデータベースに、国際子ども図書館で受けた児童書に係るレファレンス事例を掲載しています。

#### 学校図書館へのセット貸出し

学校図書館への支援を目的として、世界の国や地域に関する資料とその国の絵本や物語、原語の絵本などを 50 冊前後のセットにして、学校図書館に 1 ヶ月間貸し出すサービスです。2008 年度は延べ 259 校に合計 12,203 冊貸し出しました。現在、「世界を知るセット」「東アジアセット」「東南アジア・南アジアセット」「ヨーロッパセット」「北欧セット」「カナダ・アメリカセット」があります。

### 4. 図書館・関係機関との連携・協力

#### 国際子ども図書館連絡会議

当館では、国際子ども図書館の前年度の活動について報告し、当該年度の計画及び将来計画について、国際子ども図書館と協力関係にある 17 の機関から意見聴取を行うため、年に一回国際子ども図書館連絡会議を開催しています。

#### 児童サービス連絡会

児童サービス関連の活発な活動を行っている都道府県立図書館から、地域的な偏りがないよう考慮して、9 つの図書館に参加を依頼して開催しています。開催の目的は、

- 1) 都道府県立図書館における児童サービスの活動の現状及び課題を把握し、情報の共有を図ること
- 2) 都道府県立図書館と国際子ども図書館の連携・協力を強化すること
- 3) 連絡会での討議内容等を公表することにより、全国の都道府県立図書館の児童サービスに係る活動を支援すること
- 4) 国際子ども図書館における子どもの読書推進支援計画策定に資すること

の 4 つです。

また、ご存知のように、「日韓両国の交流を深め、子どもたちの国際理解を促進するために、韓国国立子ども青少年図書館と国際子ども図書館は、同時期に、相手国の児童書の小展示をおこなう」という趣旨のもと、今年 10 月から来年 1 月にかけて第一回目の**日韓小展示**が行われています。

次に**研修**に移ります。国際子ども図書館が行っている大きな研修に、**児童文学連続講座**があります。全国の各種図書館などで児童サービスに従事する図書館員の資質向上、幅広い知識のかん養に資することを目的として、国際子ども図書館が広く収集してきた内外の児童書および関連書を活用した講座で、今年 11 月 9 日、10 日の 2 日間開催いたします。この講座は、読み聞かせ、ブックトークという実践的なものでなく、子どもと本をつなぐ人たちに対する理論的な面での学習支援ということになります。

2004 年以来毎回、魅力的な講師の熱の入った講義に大変好意的なご意見が多く、主催者側としてはうれしいものです。講義内容は毎年、テーマを決め、そのテーマに造詣の深い研究者による講義形式、国際子ども図書館職員によるテーマに関連する資料紹介等で構成しています。対象者は図書館等において児童サービスに従事する人で、1 機関 1 名、定員は 60 名とし、連続してすべての講義を受けられる方が条件となります。そしてすべての講義を受けられた方には、最後の日に修了証書を差し上げています。また、得られた知識をこの場で終わらせることなく、広く共有するために講義録も刊行していますし、同じ内容のものをホームページにも掲載しています。

その他、2003 年度から協力業務の一環として、国際子ども図書館の業務及び児童サービスについて理解を得る機会を提供するため、**受託研修生**を受け入れています。2005 年度までは諸機関からの依頼に基づき研修生を決定していましたが、2006 年度からは受託研修を広く周知するため国際子ども図書館 HP で公募を行い、決定しています。

このように国内外の類縁機関と連携・協力を行いつつ、日本で唯一の国立児童書専門図書館としてどのようなサービスを展開していくかは、今後の継続した課題と思われれます。

以上、簡単ではございますが、国際子ども図書館の活動現況についての説明を終わります。